

助産学会誌の冊子体をなくすことへの会員意見について

編集委員会では2019年度より助産学会誌の冊子体を廃止し、オンライン配信のみとすることを検討しており、本件について意見を募るメールを学会員へ配信しました（配信日：2018/9/3、回答期限：2018/11/30）。13名より回答フォームの提出があった。

以下、回答意見（受付順）

コメント	返答
常に職場でも自宅でもPC確認しておりますので、冊子の必要性はなく、いつでも、どこでも目を通すことができる。また、冊子としての印刷代、郵送代などの節約につながり、情報提供をいち早くできる、またこのように回答するにもメリットがある。	
日本助産学会誌をオンラインジャーナルのみにしてほしいと思います。理由の1つには、冊子体は、かさばり、引っ越しなどの際、荷物になることです。2つには、冊子体は届いたときに目を通すくらいで、活用していないことです。最後に、他の学会誌ではオンラインのみですが、全く支障なく、かえって、PCさえあればいつでも読めるので便利だと感じていることです。	
日本助産学会誌のオンラインジャーナル化への移行に賛成です。インターネットの接続が可能であれば、どこでも閲覧できます。	
学会誌を冊子体をなくし、オンラインのみにすることに賛成です。印刷や郵送の費用の節約、紙資源の節約でエコロジーへの貢献という点で意味が大きいと思います。引用・参考などの利用に関しても不自由はないと思います。これから先、オンラインが苦手などと言っていられなくなりますし、若い人たちがどんどん活用の方法を広げてくれると思います。	
オンラインジャーナルの取り組みは賛成です。デメリットにあったように、「会員資格の意味が軽くなる。J-Stageは会員、非会員に等しく無料で読める」という点で、提案です。システムでできるかどうか、ですが、最新版(当該年度)は、タイトルだけ見えるようにして、本文は、学会員しか読めないようにする。日本看護科学学会誌のように、学会員のログインが必要、というようにするのは、いかがでしょうか。しかしながら、助産実践コースの院生さんが、最も、論文を使いたい立場だと思います。院生さん用の特別枠を設けるなどの、配慮が必要かと思いました。	論文を広く公表することは、研究成果の活用を促し、論文を引用文献として活用してもらうためにも重要であると考えます。そのためJ-stageにて無料で一般公開（無料閲覧）とします。
「日本助産学会誌 オンラインジャーナルのみ」という方針に賛同いたします。オンラインジャーナルへのICT環境や技術によるネガティブな意見は理解しておりますが、基本的に会員が情報にアクセスしやすい環境を提示し予算を削減する方が、より現実的だと思います。個人的には、オンラインジャーナルにされるのであれば、投稿論文の規定について再考していただきたいと思います。	従来からも冊子体とオンラインジャーナルは平行して発行してまいりました。今回オンラインオンリーになることとの関連で特に投稿規定の変更は考えておりませんでしたが、再考が必要な箇所があれば具体的にお知らせください。
字数制限：英語雑誌の多くは参考文献や図・表は字数に含めておりません。現時点での論文の字数制限は適切なのかどうかご検討ください。	今後、検討致します。
レビュー期間：レビューがどれくらいの期間で行われるのか、大まかな期間の提示をされてはいかがでしょうか。レビューアーもお忙しい	原則4週間でレビューアーに依頼しています。

とは思いますが、あまりにもレビュー期間が長いと投稿者も対応に苦慮されると思います。	
レビューアーの規定はおありになるかと思いますが、どのように選出されているのか簡単に提示されてはいかがでしょうか。	原則として、博士の学位を取得した助産の研究者に専任査読委員を依頼することになりました。各原稿の査読はこの専任査読委員の中から領域を考え合わせて2名にお願いしています。
「日本助産学会誌のオンラインのみへの変更について」賛同致します。	
オンラインジャーナルのみでよいです。学会員のみならず広く他領域の方にも閲覧できることで、研究成果を活用していただくことになると考えます。それが女性と家族の健康支援につながると思います。助産学会の目指す理念に向けて冊子体の予算を別の部分に計上していくことの方が有効であると思われます。	
オンラインジャーナルのみになることは賛成ですが、印刷媒体にかかる費用や郵送料等のコストが不要となった分、何にその予算が活用されるのか？それとも、かかる諸経費はオンラインジャーナルのみになっても変化がないのか？を会員にお知らせいただければと思います。	投稿数の増加に伴い必要経費が増えています。また、論文の早期公開のために経費を使用します。会計については総会報告をご確認ください。
日本助産学会誌のオンラインジャーナルのみへの変更について、他の機関も冊子から電子媒体に変更する状況が御座いますので、オンラインのみの配信に賛同いたします。変更にあたり、その趣旨を会員に伝えて頂ければ問題なく移行できると思います。	マンスリーメールに記載します。
オンラインジャーナルのみへの変更について、賛成いたします。ただ、会員がすぐにアクセスできるように会員への通知のしかたなどこまめにしていただき、採択された論文情報をタイムリーに会員へ通知できるようにしていただきたいと思います。	マンスリーメールにて採択された論文（タイトルと著者名）を会員のみなさまにお知らせします。
（以下、内容を要約して掲載） オンラインジャーナルは、すでに研究テーマを持ち、その更なる研究を進めていく研究者にとっては、利便性が高いと思いますが、特定のページを、研究者自身が指定し、検索しなければ出てこないものです。そのため、オンラインジャーナルによる定型テーマへの検索研究だけでは、今後の発展・進展を目指す分野は限られてくる危険性が高いことが問題です。院生や学生の研究では、助産学雑誌等の目次や論文を閲覧、乱読することにより、新しく取り組むべき研究テーマに遭遇し、重要な視点、方法論、先輩研究者を知ることにも繋がります。これからの紙媒体の助産学雑誌を、学生や院生の研究空間に並べ、通読できる環境を提供しておけば、院生自身がその研究に関する必要資料を見つけ出し、努力してくれる場となると思います。従って、紙媒体の助産学会誌は、次に続く助産学専攻の学生や院生の教育には非常に重要だと思います。現在、少部数でも製本できる「ショートラン」型の製本もあると聞きますので、それらを利用して、後輩教育のために、少部数でもぜひ紙媒体の助産学会誌発行を検討すべきだと思います。最後に、夜間PCの光で画面を読むことを療養上よくないとされる、病者の学会員にとって、あるいは助産学会の歴史的背景からPC操作の苦手な年配の会員の方々にとって、オンラインジャーナルへの学会誌の移行は、閲覧機会が減るのではないかと残念に思います。	貴重なご意見をありがとうございました。冊子体の利点も十分検討しましたが、オンライン化は時代の趨勢だと思います。また、経費的に選択を迫られた場合、オンラインを優先せざるを得ないという結論に達しました。今後は会員や学生の閲覧機会が損なわれることがないように、一層努力したいと考えています。